

埼玉親善大使・フィンドレー大学奨学生レポート⑦（2月） 「シカゴ美術館とルノワール」

厳しかった寒さも徐々に和らぎ始め、フィンドレーには久方ぶりの雨が降りました。2月は大学では英語クラスで論文の読み書きなどの課題に追われ、会社では書類と格闘し、あっという間に終わってしまいました。フィンドレーでの生活も残り2ヶ月となり終わりが近づいていますが、こちらにいる間にできることに注力していきたいと思います。

さて、第7回目となる今回のレポートでは春休みを利用したシカゴ旅行とインターンシップでの作業環境改善業務について紹介したいと思います。

■ 春休みのシカゴ旅行

今年フィンドレー大学では中間試験の後9日間の春休みがあったのですが、その連休の半分を利用して私はフィンドレー大学の友人と一緒に4日間シカゴへ旅行に行きました。今回のシカゴ旅行ではシカゴ美術館（Art Institute of Chicago）や世界最大級の屋内型水族館であるシェッド水族館（Shedd Aquarium）などを見に行きました。

4日間の旅行を通じて最も印象に残ったのはシカゴ美術館で見た一枚の絵でした。浅学な私はその絵について「見たことがある」という程度で題はおろか誰の作品なのかさえ全く知らなかったのですが、展示されている数百の作品の中で一際目を引いたのがこの絵でした。気になった私は横に添えてある作品解説をメモし、後に調べてその絵がルノワールの“二人の姉妹、テラスにて”という非常に有名な作品のオリジナルであることを知ったのですが、一枚の絵にこれほど惹かれたのは初めてでした。しかしながら、それだけ印象が強かった絵であったにもかかわらず、改めて調べた時私は表示された画像に対してそれほどの強烈な魅力を感じませんでした。この時初めて私は実物の作品が持つパワーというものを痛感しました。普段あまり美術館などには行かない私にとってとても貴重な体験でした。



ルノワール作 二人の姉妹(テラスにて)

■ マニュアル作成作業

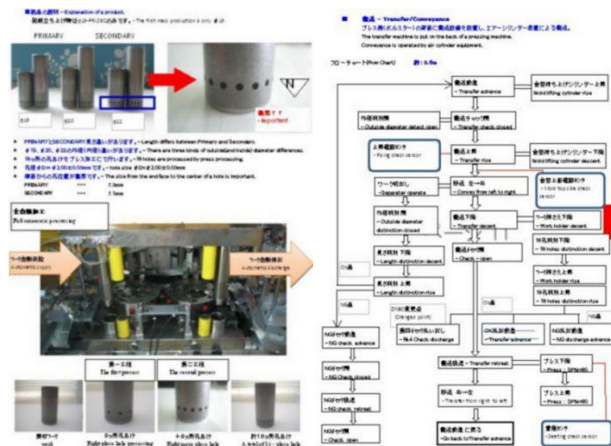
今月から私達は工場内の切削加工に関する各ラインの作業環境改善業務に取り組んでいます。これは工場内の各ラインにおける作業環境をチェックし、スムーズな業務の妨げになる箇所を改善してより安全かつ効率的な業務を目指すためのものです。この問題点発見及び改善要求の流れについては奥村君のレポートで紹介されています。

今回私たちが改善に直接関わった箇所として大きい比重を占めていたのはトラブルシューティングマニュアル不足の改善でした。マニュアル自体が存在してもそれが本来置かれるべき機械の周辺に無いと、問題が発生した場合解決までに時間がかかってしまう原因になります。また、一部のマニュアルにおいて日本語のみで英語表記が無い、ということも運転再開の遅れに繋がるようでした。現場で働いているアメリカ人の方は日本人の方に確認をしなければならず、独力での解決が困難である場面も多いようでした。

こうした背景から、私達は作業環境改善業務の一環としてマニュアル類の翻訳作業を行いました。書類の分量もありましたが、それ以上に多くの機械工学系

専門用語や使われている機械の知識・現場の知識などが翻訳の際には壁となりました。中でも一番苦戦したのは英語と日本語で呼び方の異なる部位の翻訳でした。ある機械のマニュアル上では日本語で「スライド」と呼ばれている部位が英語では「ツールホルダー」と呼ばれていたのですが、そこに辿りつくまでにはアメリカ人の上司の方に尋ね、図を描き、仕組みを確認した所で違う部位の話と誤解していたことに気が付き……という果てしない道のりがありました。

書類翻訳を通じて、語彙も増え和英・英和の訓練にもなりましたが、何よりマニュアルを読み込み翻訳という形で咀嚼することで、普段何気なく見ていた機械の内側ではこういったことが行われているのかということを知ることができました。また、現場では問題発生時のレポートやマニュアルがどのように作成されているのかということを見ることができ、非常に有意義でした。



対訳を作成した資料の一部